

オケクラフトは
何を材料に作られているでしょうか
答えはかんたん
「木」を材料にして作られています
こんなことは当たり前
と、思うかもしれませんが
では、植物として生きている「樹」から
材料として使用される「木材」になるまで
どのような過程があるのかご存知でしょうか
オケクラフトに欠くことのできない
木材について、あれこれno.11では
皆さんにお伝えしていきます



オケクラフト＝「白い器」のイメージは、
材料として使用されたエゾマツの白い木肌からくるものでした
オケクラフトに欠くことのできない、木材のあれこれについて、
材料を担当する福井さんにお話を聞きました



人と、木と、おけと



十一月
十二月
一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月

伐採期間

賃挽き作業

乾燥作業

選別

販売

Q1 オケクラフトの材料となる木材は、町内で調達されているのですか？



answer

当初は、「木の町 置戸」で有効に使用できていなかった「あて材」等の欠点材に着目し、町産材をメインに作られていましたが、現在では全道から旭川の銘木市に集まる丸太を選定し、道東・道北のものを選んで購入しています。そのため材料は道産材ですが、置戸町産材の樹木で製作されるオケクラフトは少なくなっているのが現状です。置戸町産材としては、森林組合等からの伐採情報をもとに購入するものがあります。



Q3 立木が材料として使えるようになるまでには、どのくらいかかりますか？

answer

成長) オケクラフトの材料として購入するエゾマツは木口が直径40cm程度のもので、年輪を見てみると、百年近く成長したものであると予想できます。

材料) 立木の状態から材料として使用できるまでには、**おおよそ半年**かかります。**丸太の選定**からはじまり、**皮むき、賃挽き、乾燥、選別、販売**といった流れで作り手の手元に材料が渡っていきます。

※賃挽き＝丸太を材料の寸法に挽くこと

Q2 1年にどのくらいの木材がオケクラフトでは使用されていますか？

answer

現在工芸館では、オケクラフトの主要木材である「エゾマツ」以外にも木材を使用していますが、「エゾマツ」だけで考えると丸太の状態でおおよそ35㎡。ここから歩留まりを考えるとおおよそ15㎡程度となります。オケクラフトの作り手の中でもエゾマツだけを材料に製作する作り手が減少していることから、全盛期に比べるとエゾマツの消費量も減少しています。

Q4 材料担当の福井さん。材料にかかるスケジュールは、どのような動きですか？

answer

基本的に造材は冬に行われるので、11月頃から少しずつ丸太が出てきます。十分に丸太が集まってくるのが年明け。年明けに開かれる銘木市で丸太を選定、購入し、購入した丸太を挽く賃挽き作業を2月に1回と、3月に1回行います。賃挽き作業は朝から夕方まで。その後、材料の乾燥作業をしていきます。



賃挽き作業は、作り手のほか、塾生も研修の一環として手伝います

Q5 なぜ木材は冬場に伐採されるの？

answer

理由は様々にありますが、北海道など雪の多い地域では伐採後や運搬作業時に雪をクッションにすることで、木材を傷つけないようにするためにとされています。その他、冬場に行くことで伐採後の木材に虫がはいることを防ぎ、多くの樹木は気温の低下とともに休眠状態になることで、木の中に含む水分量が減り、木自体が軽くなることも冬場に伐採される理由のひとつとされます。



オケクラフトの中でも、シラカバを材料として扱う作り手は、自ら町内のシラカバを伐採しています。その理由は、シラカバの樹皮を傷つけないため。樹皮が特徴的なシラカバは商品にもそのまま活かされます。作り手自らが伐採し、樹皮が傷つかないように丁寧に作業を行います。